

# 高齢者における歯科用骨形態評価プログラムを 使用した骨粗鬆症リスクの評価

話題提供 三田市・大槻歯科医院院長 大槻榮人先生

日時 6月22日(日) 午後4時15分～5時15分

会場 保険医協会5階会議室 (JR・阪神「元町」駅東口を南へ徒歩7分)

参加費 無料

展示協賛 メディア株式会社

**午後2時～4時 歯科社保学習会「検査、画像診断、投薬、処置、手術」も  
ご参加ください!**

歯科パノラマエックス線写真の歯科用骨形態評価プログラムを使用し、高齢者の骨粗鬆症リスクの評価を行ったのでその概要を報告する。

歯科用骨形態解析システム (PanoSCOPE:メディア社) は、下顎骨の皮質骨の粗鬆化に関わる指標である下顎骨皮質骨指数 (mandibular cortical index、以下 MCI) と下顎骨下縁の皮質骨の厚み (mandibular cortical width、以下 MCW) から骨粗鬆症のリスクを判定することが可能である。下顎骨の形態異常が認められない場合は「低い」、やや骨粗鬆症の疑いが見られるときは「やや高い」、骨粗鬆症が強く疑われるときは、「高い」の3段階に評価した。MCI は、両側皮質骨の内側表面がスムーズ (I 型)、皮質骨の内側表面は不規則となり内側近傍の皮質骨内部に線状の吸収が認められる (II 型)、皮質骨全体にわたり高度な線状の吸収と皮質骨の断裂が認められる (III 型) の3分類した。MCW の計測部位はオトガイ孔下であり、骨粗鬆症の疑いありと判定される基準値は 2.6mm 未満であり、評価は両側を判定し悪い方の判定を用いた。MCMI (mandibular cortex morphology index、以下 MCMI) は、コンピュータにて収集された皮質骨形態に関する画像工学的な特徴量から計算したものであり、35 以上 64 以下の場合には骨粗鬆症の疑いは「やや高い」、65 以上の場合には「高い」と評価した。このシステム (Pano SCOPE:メディア社) は、日常診療において医科歯科連携の強化に有効であると思われる。(大槻 記)

協会未入会の先生はご入会の上ご参加ください(入会金なし。会費:開業医 5000 円、勤務医 3000 円)

お問い合わせは、兵庫県保険医協会歯科部まで TEL078-393-1809

6月22日(日)

(返信 FAX:078-393-1802)

- 午後2時からの「歯科社保学習会」 参加します  
●午後4時15分からの「歯科臨床談話会」 参加します

医療機関名 ( ) 所在地 ( 市・区・町)

お名前 ( ) 職種 ( )、お名前 ( ) 職種 ( )